

ドームラ奏者アンドレイ・クガエフスキー氏が来校

9月18日（火）、ロシアの民族楽器ドームラ（ домра ）の奏者であるアンドレイ・クガエフスキー氏と札幌大学でロシア語を教えている高橋健一郎教授が本校を訪れ、3学年の基礎ロシア語と1年5組の英語Ⅰの授業で、音楽への深い愛情と未来を担う若者への期待を込めながら、ロシアの民族楽器を取り巻く歴史やロシアの楽器ドームラについてお話して下さいました。



クガエフスキー氏と高橋教授

中世のロシアでは「スコモローフ（skomorokh）」と呼ばれる放浪芸人がおり、婚礼や埋葬式の際に歌や踊り、楽器演奏などで人々を楽しませたりしていたそうです。彼らが使っていた楽器のひとつが「ドームラ」でした。



ロシア語を選択する3年生も真剣に耳を傾けます

一方で、スコモローフは政治体制を風刺するような歌をうたうこともあったため、1648年にモスクワ大公アレクセイによってスコモローフの演芸や楽器演奏が禁止されたうえに、当時の楽器が全て集められて燃やされてしまったそうです。

その出来事で、ロシアの民族楽器やその演奏の発展が滞りましたが、田舎町でひそかに残っていた古い楽器や、民族楽器制作のための設計

図が発見された等の紆余曲折があり、現在に至るそうです。

高橋教授の通訳のもとで進められたお話の最後には、ドームラによる演奏も披露していただきました。普段まったく触れることのない楽器の音色とそのすばらしい演奏に、生徒達も拍手喝采でした。



ドームラの演奏も披露して下さいました